

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	A-730	22-078
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之		
題名 (原題/訳)		
Risk of cardiovascular disease in patients with alcohol use disorder: A population-based retrospective cohort study アルコール使用障害患者における心血管疾患のリスク： 集団ベースの後ろ向きコホート研究		
執筆者		
Sung C, Chung CH, Lin FH, Chien WC, Sun CA, Tsao CH, Weng CE.		
掲載誌		
PLoS One. 2022 Oct 25;17(10):e0276690. doi: 10.1371/journal.pone.0276690.		
キーワード		PMID
アルコール摂取、 アルコール使用障害、循環器疾患、台湾、 疫学		36282879
要 旨		
<p>背景 アルコール摂取が心血管系に及ぼす影響は、1日の平均摂取量と摂取期間によって異なる。この集団ベースのレトロスペクティブ・コホート研究は、アルコール使用障害（AUD）患者における心血管疾患（CVD）のリスクを調査することを目的とした。</p> <p>方法 2000年から2013年にかけて台湾国民健康保険研究データベースからデータを収集した。合計7,420人のAUD患者を研究対象群に、29,680人の年齢と性別が一致したAUDのないものを対照群に設定した。CVDリスクに対するAUDの影響を検討するため、Cox比例ハザード回帰分析を用いた。</p> <p>結果 患者は25～44歳の男性であった。追跡期間終了時、AUD群は対照群に比べCVD発症率が有意に高く（27.39% vs 19.97%、$P < 0.001$）、併存疾患も多かった。また、Cox回帰分析およびFine and Grayの競合リスクモデルにおいて、AUD群は対照群よりもCVD発症率が有意に高かった（調整ハザード比[AHR]=1.447、95%信頼区間[CI]=1.372-1.525、$P < 0.001$）。さらに、男性、糖尿病、高血圧、高脂血症、慢性腎臓病、慢性閉塞性肺疾患、不安、うつ病、Charlson Comorbidity Indexの高値もCVDリスクの上昇と関連していた。CVD、虚血性心疾患（IHD）、脳卒中などさまざまなCVDサブグループにおけるAUD患者は、AUDのない患者よりも有意に疾患リスクが高かった；CVD（AHR = 1.447、95%CI=1.372-1.525、$P < 0.001$）、IHD（AHR=1.304、95%CI=1.214-1.401、$P < 0.001$）、脳卒中（AHR=1.640、95%CI=1.519-1.770、$P < 0.001$）であった。リスクはまた、CVDサブグループの患者間で有意に異なっていた。</p> <p>結論 全国的な集団コホートにおいて、いくつかの併存疾患や薬物療法を調整した後でも、AUDとCVD発症との関連を観察した。</p>		